

■はじめに/交付金の構成

はじめに

農村地域には、私たちが生きていくために必要なお米や野菜が作られている田んぼや畑があります。そして、たくさんの生きものや美しい景観、豊作に感謝する伝統文化が育まれています。

しかし、今、農家の減少や高齢化などにより、豊かな農村の恵みを維持することが難しくなっています。

そこで、県ではみんながいきいきと暮らし、農家や非農家、地域の大人から子どもたちまでみんなでチカラをあわせて行、農地や水路などを維持保全する活動、田んぼや水路の生きもの調査、田んぼや水路、農道などの法面を利用して花を植える活動などを応援しています。

このパンフレットは、地域のみなさんが「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」を活用して、このような活動に取り組んでいただけるよう、その仕組みをお伝えするものです。



- ◆本対策は、平成27年4月から法律^{※1}に基づく制度になりました。
 - ◆国と県で交付金の名称^{※2}が異なっています。
- ※1 農地の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律
※2 国名称：多面的機能支払交付金
県名称：世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策

1. 世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策の構成

農地維持支払交付金 と 資源向上支払交付金 から構成されます。

農地維持支払交付金

多面的機能を支える共同活動を支援します。

- 支援対象
- ・農地法面の草刈り、水路の泥上げ、農道の路面維持などの基礎的保全活動
 - ・農村の構造変化に対応した体制の拡充・強化、保全管理構想の作成 など

資源向上支払交付金

地域資源（農地、水路、農道など）の質的向上を図る共同活動を支援します。

- 支援対象
- ・水路、農道、ため池の軽微な補修
 - ・農業排水の透視度調査、生きもの調査
 - ・環境負荷低減を図る取組
 - ・施設の長寿命化[※]のための活動 など

※長寿命化：老朽化が進む農地周りの水路の補修・更新

■ 交付金の構成/交付単価



2. 交付単価

(円/10a)

	農地維持支払	資源向上支払 (共同)					加算措置		資源向上支払 ^{※1} (施設の長寿命化) [上段単価]
		標準型	環境保全型	防災減災型	生態系保全型	田んぼ/農道加算	増進加算		
田	2,200	1,300	1,800	1,800	1,800	300	300	4,400	
畑	1,500	800	1,080	800	800	—	180	2,000	
草地	180	120	180	120	120	—	30	400	

	環境負荷低減の取組への支援 (みどり加算)						体制強化への支援 円/組織
	長期中干	冬期湛水	夏季湛水	中干し延期	江の設置		
					作業実施	作業未実施	
田	800	4,000	—	3,000	4,000	3,000	1組織当たり 400,000
畑	—	—	8,000	—	—	—	

※1 広域活動組織を除き1集落当たり200万円/年以下
・直営施工未実施の場合、上限単価の5/6に減額

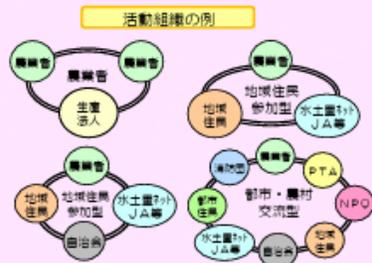
3. 支援の対象となる組織

交付金を活用した取組を行うためには、**活動組織**または**広域活動組織**のいずれかを設立する必要があります。

農地維持支払交付金

活動組織

- ① 農業者のみで構成される活動組織
- ② 農業者および地域住民、地域団体などで構成される活動組織



広域活動組織

- ① 農業者のみで構成される広域活動組織
- ② 農業者および地域住民、地域団体などで構成される広域活動組織

広域活動組織の例 (農業者のみで構成)



広域活動組織の例 (農業者、地域住民、地域団体などで構成)



資源向上支払交付金

- 共同活動、施設の長寿命化
農業者および地域住民、地域団体などで構成される活動組織または広域活動組織

広域活動組織

旧市区町村単位等の広域エリアにおいて、集落（活動組織）、土地改良区、地域団体など、地域の実情に応じた構成員から成る、構成員間の協定に基づく組織です。組織設立などの支援を受けることができます。

協定の対象とする区域が、昭和25年2月1日時点の市区町村区域程度、または協定の対象とする区域内の農用地面積が200ha以上を有していることが基本ですが、**中山間地域等の条件不利地域では、50ha以上または3集落以上でも可能です。**

4. 対象活動

以下に示す活動が対象となります。

農地維持支払交付金

地域共同による農用地、水路、農道などの①**地域資源の基礎的な保全活動**と、②**地域資源の適切な保全管理のための推進活動**に対し、対象農用地面積に応じて支援します。

① 地域資源の基礎的な保全活動

活動計画書に位置づけた農用地、水路、農道などについて、点検・計画策定、実践活動を毎年度実施します。（実践活動の一部は、点検の結果に基づいて実施の必要性を判断します。）

点検・計画策定



施設の点検

年度活動計画の策定

実践活動(例)



農地法面の草刈り

水路の泥上げ

研修(例)



事務・組織運営
機械の安全使用 } に関する研修



ため池の草刈り



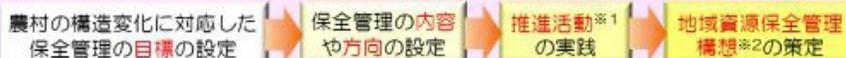
農道の路面維持

※実践活動等（実践活動のほか、点検、機能診断、増進活動など現地での活動を伴うものを示す）の動には、安全点検を実施しましょう

※事務・組織運営、機械の安全使用に関する研修は、活動期間中（5年間）に各1回以上受講

② 地域資源の適切な保全管理のための推進活動

地域での話し合いにより地域資源の保全管理の目標を定め、目標に即した取組を実施しながら、将来にわたる地域資源の保全管理に関する構想を策定します。



- ※1 推進活動の例（毎年度実施）
 - ・農業者（入り作農家、土地持ち非農家を含む）による検討会
 - ・不在地主との連絡体制の整備、調整、それに必要な調査
 - ・地域住民等との意見交換、ワークショップ、交流会 など

- ※2 地域資源の適切な保全管理に向けた推進活動を通して、目指すべき保全管理の姿、取り組むべき活動・方策をとりまとめたもの。活動期間中に本構想を策定することが必要です。（前期対策から変更がない場合も、本構想の提出が必要です。）

資源向上支払交付金（共同）

【標準型】

水路、農道等の①施設の軽微な補修、②農村環境保全活動および③多面的機能の増進を図る活動に対し、対象農用地面積に応じて支援します。

【環境保全型】

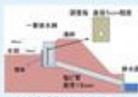
標準型にプラスして、「水質浄化池の機能維持活動」に対し支援します。



浄化池の理上げ

【防災減災型】（現在取組中の活動組織限り）

標準型にプラスして、まとまった農地で行う排水調整板の設置管理など、田んぼの貯留機能等を高める「田んぼダム」の活動に対し支援します。



田んぼダムの概要

【生態系保全】

標準型にプラスして、魚道の設置や水田内水路の設置など、生物（魚類等）の生息環境や移動経路の確保のための整備に対し支援します。また、在来魚の繁殖場所を確保するための「魚のゆりかご水田」の取組を、地域のまとまった面積で実施する場合も支援の対象となります。



水田魚道の設置（堰上式）

魚巣ブロックの設置

石積水路の設置

水田魚道の設置（一壩型）

ワンドの形成

水路からの脱出施設の設置



①施設の軽微な補修

活動計画書に位置づけた農用地、水路、農道などの機能診断や補修などが対象です。「計画策定・機能診断」「実践活動」「研修」から構成されます。

計画策定



年度活動計画の策定

機能診断



施設の機能診断

実践活動(例)



鳥獣害防除網の補修・設置

水路のひび割れ補修

カバープランツの植栽

踏道施設の清掃

水路法面の初期補修

農道の部分補修

研修(例)



補修に関する研修

機能診断に関する研修

※研修は、活動期間中に1回以上受講

②農村環境保全活動

水質保全や生態系保全などの農村環境の保全を図るための活動が対象です。「計画策定」「啓発・普及」「実践活動」から構成されます。「実践活動」のうち、水質保全と生態系保全は必須の活動となります。

計画策定



実践活動の計画策定

啓発・普及(例)



地域住民との交流活動



のほり旗や看板の設置

実践活動(例)



水質保全

水質保全

生態系保全

水守当番による排水調整

遠来集積

生きもの集積

運路法面への植栽

遊休農地への植栽

定期的なゴミ拾い

③多面的機能の増進を図る活動

地域の創意工夫に基づいて行われる下記の活動が対象です。

- ◇遊休農地の有効活用
- ◇鳥獣被害防止対策および環境改善活動の強化
- ◇地域住民による直営施工
- ◇防災・減災力の強化 ※1
- ◇農村環境保全活動の幅広い展開 ※2
- ◇やすらぎ・福祉および教育機能の活用
- ◇農村文化の伝承を通じた農村コミュニティの強化
- ◇水管理を通じた環境負荷低減の取組 **NEW R7~**
- ◇広域活動組織における活動支援班の設置 **NEW R7~**

※1 「災害時における応急体制の整備」も交付対象となります。

※2 滋賀県では、②農村環境保全活動において水質保全および生態系保全が必須活動であるため、「農村環境保全活動の幅広い展開」に自動的に該当します。

資源向上支払（共同）に取り組む場合は、水質保全活動、生態系保全活動、多面的機能の増進を図る活動のいずれかに関する下記の広報活動を実施する必要があります。 ※3、※4

- ◇チラシやパンフレットの配布や掲示
- ◇看板やポスター等の設置、掲示
- ◇ホームページの開設、更新
- ◇行政機関や関係団体等の広報誌やホームページへの掲載
- ◇各種イベント等での活動内容等の紹介
- ◇地域外からの呼び込み（農村関係人口の拡大） など

※3 ②農村環境保全活動の啓発・普及で「広報活動」に取り組む場合、上記の広報活動とは別の活動に取り組んでください。

※4 中山間地域等において活動する活動組織は任意です。



シニアライフ総研®独自の6つのカテゴリー

シニアライフ総研®では「シニア」を年齢軸で55歳以上と定義していますが、生活背景、行動様式、社会との関わり方など、その特徴は一概に一括りにはできません。

そこで、年齢軸のほかに就業状況、身体状態、普段利用しているデジタルデバイスやインターネットの利用頻度、趣味やコミュニティ参加などの回答を得点化し、シニアライフ総研®独自の視点でシニア世代を6つの分類に大別しています。

<p>現役層</p> <p>仕事中心で最新情報やIT機器も使いこなす意識の高い層</p> <p>第一線で活躍し続ける 「ワイルド」シニア</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年齢区分: 55歳～64歳 ● 属性: 現役で働く人 	<p>アラ70/ アクティブ層</p> <p>健康志向で何に対しても貪欲でチャレンジ精神が旺盛であり、確固たる自己を持つ層</p> <p>トレンドに敏感な 「肉食系」シニア</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年齢区分: 65歳以上 ● 属性: アクティブ性向あり 	<p>居宅介護層</p> <p>生活全般にサポートが必要とし、特に子供に頼っている層</p> <p>物理的に生活の主体性が発揮しにくい 「タヨリ」シニア</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年齢区分: 65歳以上 ● 属性: 居宅介護を受けている 
<p>引退層</p> <p>時間に余裕があり経済的に余裕がないものの、自身の趣味等に時間・お金を惜しまない層</p> <p>自己を見つめなおす 「マイルド」シニア</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年齢区分: 55歳～64歳 ● 属性: 働いていたが引退した人 	<p>アラ70/ マイペース層</p> <p>金銭的な余裕の有無は両極だが、ネットリテラシーが極めて低いマイペースな層</p> <p>落ち着いた隠居生活を営む 「草食系」シニア</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年齢区分: 65歳以上 ● 属性: アクティブ性向なし 	<p>施設介護層</p> <p>自身の置かれた環境を受け入れ、介護専門職に身を委ねる層</p> <p>受動的な生活を送る 「サトリ」シニア</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 年齢区分: 65歳以上 ● 属性: 施設介護を受けている 



現役層 (区分: 55~64歳)
第一線で活躍し続ける
「ワイルド」シニア

仕事中心で最新情報やIT機器も 使いこなす意識の高い層

就業状況はフルタイムの正社員が4割を占め、引退後の就労意欲が他層と比べて高い傾向にあります。また、現役で働いているためデジタルデバイスに対する抵抗が少なく、若い世代と多く接して新しいツールを取り入れやすい環境にあるからか、スマートフォンやパソコン、タブレット、その他IT機器、Webサービス、SNSを使っている人が多いのが特徴です。

[記事へ](#)



引退層 (区分: 55~64歳)
自己を見つめなおす
「マイルド」シニア

自身の趣味等に 時間・お金を惜しまない層

仕事を辞めて一旦ゆっくりしたいと考えている方が多く存在するためか、定年退職後の就労意欲が10%しかなく、健康寿命内の4層の中で最も低くなっています。また、自分で生活必需品を購入する人が75%を占めており、他層と比べて最も配偶者・パートナーに頼らない層と言えます。

[記事へ](#)



アラ70アクティブ層
(区分: 65~健康寿命内)
トレンドに敏感な「肉食系」シニア

健康志向でチャレンジ精神が旺盛、 確固たる自己を持つ層

定年退職後に就業したくない人の割合が他層と比べて最も高い一方で、就業したい人の割合も現役層に次いで多く、就業意欲が高い層と低い層に二極化しています。また、WEBサービスやSNSを使っている人が多く、特にYOUTUBEの利用率・インターネット通販の利用経験が高いことから、ITを幅広く活用している層と言えます。

[記事へ](#)



アラ70マイペース層
(区分: 65~健康寿命内)
落ち着いた隠居生活を営む
「草食系」シニア

金銭的な余裕の有無は両極 マイペースな層

自らの経験について自分から発信しない人が40%、コミュニティへの参加率についても健康寿命内の他層と比べて低いことからコミュニケーションに対して消極的な層です。また、デジタルメディアへの接触率やSNSの活用率が低いのが特徴です。

[記事へ](#)



居宅介護層 (区分: 健康寿命外)
物理的に生活の主体性が
発揮しにくい「タヨリ」シニア

生活全般にサポートを必要とし、特 に子どもに頼っている層

子供・子供の配偶者との同居率が高く、他層と比べて生活必需品の購入者が子供である割合が圧倒的に高いことから普段の生活を子供に頼っている層であると言えます。ただし、一人暮らしをしている層が15%と、介護・看護等のサポートが必要にも関わらず一人で暮らしている人が一定数存在しています。

[記事へ](#)



施設介護層 (区分: 健康寿命外)
受動的な生活を送る
「サトリ」シニア

自身の置かれた環境を受け入れ 介護専門職に身を委ねる層

現在の居住場所は、「特別養護老人ホーム」、「介護老人保健施設」、「介護療養型医療施設/介護医療院」の順に多くなっています。日常的にコミュニケーションを取っている相手は「介護系専門職」が圧倒的に多く、今後コミュニケーションを増やしたい相手が少ないことから、コミュニケーションに消極的なのが特徴です。

[記事へ](#)